

中村元 慈しみの心

山陰中央新報 (総合)

中村元 慈しみの心 No.1172

ある目標となるものが百の特徴をもっているときに、ただ一つの部分(特相ないし特徴)のみを見る人は、愚者であり、百を見る人は賢者である。
(「テーラカーター」)

〈解説〉物事の一部しか見ないの部分は見えず、問題はその部分で見えなくなり、見た部分すべてだと勘違いしてしまうこと。それは真実の姿ではない。智慧ある賢者とは、全体像を見る力をもっている人で、こうすればどうなるかわかる人であろう。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 19 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1171

人間の努力という樹は、叡智の水によって潤され、思慮分別という灌溉用の溝に囲まれている場合には、はじめて果実を結ぶものなのです。
(「ソーマデーヴァ」)

〈解説〉4人の兄弟は特殊な能力でライオンを生き返らせた。順番に、骨のかげらから肉を再生し、毛と皮を削り、もとの体に戻し、命を与えた。生き返ったライオンは4人を殺し森へ消えた。自分の力だけを使うことに夢中な兄弟は命を失った。有害なものを作ってはいけない。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 18 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1174

防御によって捨てられるもろもろの心身の汚れ(煩惱)がある。回避によって捨てられるもろもろの汚れ(煩惱)がある。
(釈迦)

〈解説〉「あらゆる心身の汚れである煩惱を防止する教えを説こう」と述べる経典(「一切漏経」)に出てくる説明。防御とは、刺激の入り口である感覚器官を護ること。回避とは、煩惱が生じやすい危険な場所には近づかないこと。誘惑の多い場所や、悪友の中、実践に適さない環境などである。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 21 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1173

心身を煩乱逼悩して相続するが故に煩惱と名づく。
(「入阿毘達磨論」)

〈解説〉煩惱を定義して、私たちが(心身)を煩わし乱し、責め苦しめる(逼悩)心のはたらきだと説明する。煩惱と言えは何か特別なものがあるようだが、それは、心の汚れで、はたらきである。であるから、生じないように防ぐことも、滅ぼすことも可能なはずである。実践的には心の制御となるだろう。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 20 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1176

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

苦難多きこの世にあつて人々が明るく楽しく生きてゆくためには、他人に対する暖かな思いやりと心からの同情心をもたなければならぬ。

（中村元）

2019. 2. 23 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1175

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

暴虎馮河、死して悔い無き者は、吾れ与にせざるなり。（『論語』）

△解説▽素手で虎と戦ったり、大河を徒歩で渡ったりして、向こう見ずで、死んでもかまわないという者とは、私はいっしょに行動しない。計画性のない、無謀な勇気を戒めている。それは決して本当の勇気とは言えない。そこには根本的な勘違いがある。勇敢だと見えてほしいからか。同様に、修行もできていない者が誘惑の多いところへ入っていくのはやはり無謀である。

2019. 2. 22 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1178

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

人がおびただしい富あり、黄金あり、食物あるにもかかわらず、自分ひとりおいしいものを食べるならば、これは破滅への門である。（釈迦）

△解説▽財を得て富を貯えても、それを自分のもとにとどめて、自分だけが贅沢するというのは正しい道ではない。それは破滅への門だという。そこで、努力によって財を獲て、浪費せず、獲得した財を保持する。そして、それを正しく活用することが推奨される。

2019. 2. 25 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1177

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

人が適当なところに住み、高潔な人に親しみつかえ、正しい気持ちをもち、あらかじめ善を行ったなら、穀物と財宝と榮譽と名声と安樂とは、彼のもとに集まる。（釈迦）

△解説▽ブツダは一般信者に対して財を稼いで貯えることを否定はしていない。それどころか推奨している。欲望を制御することは財を軽蔑することではない。問題はそれをいかに獲得して、いかに用いる（与える）かだ。ここにブツダの倫理の特徴が示される。

2019. 2. 24 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1180

匹夫の利を専らにする、猶お之を盗と謂う。王にして之を行わば、其れ帰するもの鮮からん。（『史記』）

〈解説〉たとえ、身分の低い人であっても利益を独占するならばそれを盗人というのである。まして一国の王がこのようなことをしたならば、人々が彼に心を寄せることはなくなってしまうであろう。それだけではなく、国王には、不満や怒りが集まることになり、一国をまとめることなど到底できない。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 27 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1179

三つの条件を備えた商人は、久しからずしてその財産が巨大になる。その三つとは何か。それは商人が炯眼で、巧みに活動し、基礎確実なことである。（釈迦）

〈解説〉財を得るには相応の能力が必要だ。ここでは、三つの条件をあげている。炯眼とは物事をはつきりと見抜く力。それは、「この商品がこのように買われ、売られ、価格はどれほどで、これほどの利益があるだろう」と知ることだという。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 26 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1181

もし私（の話）に賛成できるなら賛成し、否認すべき（と考える）なら否認しなさい。話すことの意味がわからなければ、私に質問しなさい。こうしてわれわれは対話しよう。（釈迦）

〈解説〉当たり前であるが、これは対話の基本であろう。しかし、この基本の流れに、私たちは、利害関係や、感情や自我が入り込むから、否認できなかつたり、否認されて腹をたてたり、遠慮して質問できなかつたりする。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019. 2. 28 中村元記念館協力